

高安の里におけるニッポンバラタナゴを保護するための地域循環共生圏づくり

活動地域  大阪府



高安里づくりベースのキンタイ博物館

課題

高安地域のニッポンバラタナゴを含む生物多様性を保全することが、高安の地域循環共生圏を構築することにつながることを実証する。

目標

大阪産ニッポンバラタナゴを保護するために、里山においては、良好な森林環境が維持され、里地においては、河内木綿やきんたい米・地場野菜の有機栽培が促進される。

活動内容と成果

高安地域において、自然再生活動として森林整備や有機野菜やオーガニックコットン作りを実施した。ニッポンバラタナゴ(キンタイ)の保護池のドビ流しを実施し、キンタイを含む生物多様性を保全した。また、高安まちづくり協議会と協働して、高安地域循環共生圏の拠点として里づくりベースを設立し運営し、高安全域をエコミュージアムとしてとらえ、里づくりベースを中核としたエコツーリズムを実施した。都市部の企業やNPOとの連携として、河内木綿の反物の商品化を実現し、きんたい米のブランド化とその販売ルートを開発した。



タナゴファームの活動に参加する子育て世代

ひろげる助成

3年目

実践

ニッポンバラタナゴの保護池数 **16**か所

きんたい米収穫量 **560**kg

今年度計画の達成度 **90**%

全体計画の達成度 **95**%

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

ニッポンバラタナゴの保護で、いかに住民に協力してもらえるかが最重要課題であった。まちづくり協議会で、住民の関心ごとをアンケートでとり、わがまち推進計画を作成した。

■工夫した点

河内木綿やきんたい米の商品化を多くの団体や企業と連携し実現したこと。また、公共交通機関の近畿日本鉄道と協働して間伐材を搬出し、高安エコミュージアム計画を企画した。



近鉄西信貴ケーブルで間伐材を搬出ルート

全助成期間の活動を振り返って

地域循環共生圏とは、その地域の生態系サービスを持続可能な状態で利用しながら、その地域の自立分散型のまちづくりをすることである。高安地域に関しては、八尾市の企業と連携して、高安山の森林資源の利用方法、里地における稲作や野菜及び河内木綿の有機栽培を実施し、水・食料・エネルギーを自給する協働活動である。この活動が大阪産のニッポンバラタナゴを保護し、生物多様性の保全につながることを実証することができた。

〒581-0872
大阪府八尾市郡川5-131
E-mail: n_baratanago@yahoo.co.jp
HP: <http://n-baratanago.com>



今後の展望

高安地域のニッポンバラタナゴを含む生物多様性を保全することが、高安の地域循環共生圏を構築することにつながることを実証するために、河内木綿やきんたい米、及び森林資源を持続的に利用可能にする活動を推進してきた。今後、その活動の中核となる里づくりベースを拠点にして、高安の里エコミュージアム計画を実現するために、地域住民とともに高安地域の魅力である河内木綿やキンタイ及び史跡を世界に発信していきたい。

